

～ ある日の鬼瓦物産(ファンシー雑貨販売業)その13～

『失敗? いいじゃないか! 大失敗? 尚良いじゃないか!』

- くさたべ君　もう3時間だよ。社長と美樹ちゃんは何話してるんだろ? もしかして、すごい叱ってるのかなあ。でもショックだなあ。全部の取引先でダンタン商品の売行が落ちてるなんて。数字は本当に嘘をつかないんだ。それにしても長いなあ。立ちっぱなしで足が痛くなってきたよ。
- ～ガチャ。社長室のドアが開き、鬼瓦社長が出てくる。～
- くさたべ君　しゃ、社長!
- 鬼瓦社長　おー、くさたべか。こんな時間まで何してる?
- くさたべ君　何してるって心配で見に来たんですが、中の様子が全然わからなくて……ここで待ってたんです。
- 鬼瓦社長　そうか。いつから? ってお前のことだからずっと居たんだらうな。安心しろ、美樹を叱ってはいない。今までの功績を考えたら、そんな事はできないからな。
- くさたべ君　良かった～。で、美樹ちゃんは?
- 鬼瓦社長　しばらく一人になりたいと言ってる。俺は帰るから、美樹の事は頼む。
- くさたべ君　はい、わかりました……。え-----? 頼むってどうしたらいいんですか?
- 鬼瓦社長　手握って肩でも抱いてやったらどうだ? じゃあな。
- くさたべ君　は、はい。お疲れ様でした、って言うてはみたものの困ったな。でもここで待ってても…仕方ない、行くか。(コンコン)お邪魔します。誰か居ますかー?
- 美　樹　(グスン　グスンと鼻をすする音) どうしていつもこうなっちゃうんだろ?
- くさたべ君　あの……美樹ちゃん……?　大丈夫?
- 美　樹　くさたべ君。あなた、どうしてここに?
- くさたべ君　いや、あの、その……、一寸探しものがあった。。
- 美　樹　探し物って? 何かの書類?
- くさたべ君　う、うん、そう。いや、違う、違うんだ。その……、美樹ちゃんの事が心配で。。
- 美　樹　……………　……………　……………　ありがとう。優しいのね。くさたべさんて。
- くさたべ君　くさたべ……さん?　さん?　???　それより社長に何て言われたの?
- 美　樹　あの人は何も言わないわ。ただひと言「自分が頑張ることも大事だが、それを支えてくれる人たちの笑顔があることを忘れるな」と。
- くさたべ君　それ……どういう事?
- 美　樹　私、前にも同じ失敗したことがあるの。ひとりよがりになって、とんがった絵ばかり描いてたことがあって。みな最初は、おもしろいって言ってくれたけど、しばらくしたら「美樹の絵ってなんだか疲れる」って。
- くさたべ君　……………
- 美　樹　私の描くダンタンはどれも一人でしょ。でも本当はスポーツもバイトも一人きりじゃできない。友達がいる、家族がいる、だから楽しいのよね。なのに、私はダンタンの仲間や恋人、家族を上手に描いてあげることができないの。むいてないのかな～、この仕事。
- くさたべ君　そんな筈ないよ。それに、そこまでわかってるなら描いてみようよ。友達や家族に囲まれて笑ってるダンタンをさあ。
- 美　樹　無理よ。どう描いたらいいのか、わからないもの。きっと大失敗するわ。
- くさたべ君　失敗したって構わないさ。何度でも描こうよ。「やる前から無理だ」なんて美樹ちゃんらしくない。ジョン・レノンっていう人知ってる? 僕はよく知らないんだけど。その人、昔おもしろい事言ったんだ。「失敗? いいじゃないか!　なに! 大失敗? 尚いいじゃないか!」ってね。
- 美　樹　くさたべさん……あなた……(美樹のくさたべを見る目がウツトリ)。
- くさたべ君　あ……いや……その……今日はもう遅いから帰ろうよ。
- 美　樹　ありがとう。本当に優しいのね(美樹の右の掌が、くさたべの背中に押し当てられた)。あったか～い。